

いるま

第42号

令和5年9月1日発行

題字・発行者

会長 比留間 英雄



魅力ある退職校長会を めざして

会長 比留間 英雄

前年度に引き続き会長を務めることとなりました。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

各班のご尽力で、三十二名の新会員をお迎えしました。心より歓迎いたします。

本会の会員数は七百三十六名となり、県下最大数を続けています。今後は活動の質的な在り方が問われます。

私は以前から本会の主体は各班にあると考えています。

十一班がそれぞれ工夫して活動されていますが、各班に共通する課題は財政難です。

八十八歳以上の方が年々増加し喜ばしいことですが、会費収入は減少を続けています。ただし、会費の値上げは困難な状況です。

県本部から支部への援助もありませんが、物価高もあって苦しい台所事情です。

限られた予算の中で、多くの会員が参加できる魅力ある事業の展開が求められます。その際に各支部で開設して

いるホームページが大いに参考になると思います。入間支部としても、各班のホームページ開設を進めて参ります。

今年度の支部の事業として、研修親睦旅行の再開、会報「いるま」の発行、教育推進研究協議会の開催の他、新たにホームページ担当者研修会を五月に、会員交流の集いを八月に実施いたしました。

今、学校を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。デジタル化の進行、教職員員の働き方改革、定年制の延長等、厳しい状況が現出しています。

私たち退職校長も無関心ではいられないと思います。

そこで、学校支援活動に積極的に取り組む必要があると考えています。地域に信頼される退職校長会となるためにも、各班の更なる活動を期待いたします。

今年度も魅力ある退職校長会をめざし、努めて参ります。



先輩方のご活躍を 心の支えに

人間地区中学校長会
会長 小金井 幸則

コロナ禍が落ち着きつつあり、現在、各学校では教育活動の見直しが行われています。コロナ禍前の取り組みをそのまま復活させるのではなく、コロナ禍の中で学んだことを十分に生かし、今の時代に合った見直しをし、実施しているところと見ます。長年蓄積されてきた教職員の多岐にわたる業務に対して、根本的な思い切った見直しをするよい機会にもなっています。

「不易と流行」という言葉があります。根本的な考え方を「不易」、具体的な施策や取り組みを「流行」としたら、不易の部分を見直し、流行の部分を見直していき、その際には、子供たちや先生方、家庭や地域からの願いを十分に生かし、最終的な判断を校長が行い、学校全体で取り組んでいく。その過程はとも兼楽しくやり甲斐を感じるものがあり、まさに校長のリーダーシップの見せどころです。そして、そのような大切な判断に際しては、長く教育界に携

わってこられた退職校長会の先輩方の「不易」の部分と「流行」の部分との知見が不可欠だと考えます。

校長職は激務だと言われますが、私が教頭時代にお世話になった校長先生が「仕事に勤しむ」ということをおっしゃっていました。

「勤しむ」という言葉の中には、仕事を「楽しむ」という意味が含まれているということです。校長がその激務を「勤しみ」楽しむことができれば、それがより良い学校づくりにもつながります。きつと先輩方も、激務を楽しんでこられたのだと思います。

その先輩方が、今もなお、多方面で活躍され、私たちを支えてくださっていると思うと、とても励みになり、力が湧いてきます。

どうかこれからも、ご活躍と共に、子供たちを、先生方を、そして教頭や校長たちを見守っていただき、ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。(川越市立大東西中学校)

令和五年度 定期総会

「コロナ禍を乗り越えて」

入間東部班 山田幸次



感染対策を講じての総会

令和五年度 定期総会は、五月十三日午後、「ウエスト川越」を会場として、コロナ感染症拡大防止対策を講じて、開催された。

出席者総数は、来賓、本会役員、代表代議員、入間東部班実施委員を含め計九十七名であった。

定刻午後二時に開会された。総会次第は次のとおりである。

- 一 開会のことば
- 二 国歌斉唱
- 三 黙祷 物故者 二十一名

四 会長あいさつ

比留間 英雄 会長

五 新入会員紹介 三十二名

代表あいさつ

菅野 誠一 氏(入間東部)

六 議長選出・書記任命

湊 貞一 氏

清水 修 氏

吉野 榮 氏

福満 浩一 氏

七 議事

(1) 令和四年度 事業報告

(2) 令和四年度 決算報告

(3) 令和四年度 監査報告

(4) 令和五年度 役員改選案

(5) 令和五年度 事業計画案

(6) 令和五年度 予算案

八 来賓祝辞・来賓紹介

西部教育事務所所長

衛藤 一憲 様

埼玉県退職校長会会長

石田 孝作 様

入間地区中学校長会会長

小金井 幸則 様

入間地区退職校長会顧問

井上 清 様

九 意見発表

十 県歌斉唱

十一 閉会のことば

令和5年度 新会員紹介 32名 (敬称略)

| 班 | 氏名 | 班 | 氏名 |
|----|-------|------|-------|
| 川越 | 内野 博紀 | 越生 | 酒本 希朱 |
| 川越 | 中野 浩義 | 鶴ヶ島 | 高橋 成己 |
| 川越 | 天達 新一 | 入間 | 田島 浩 |
| 川越 | 福田 和子 | 入間 | 松本 武雄 |
| 川越 | 中村 健二 | 入間 | 北野 晃 |
| 川越 | 井口 修一 | 入間 | 伊藤 潤 |
| 狭山 | 中村洋一郎 | 入間 | 浅見 信治 |
| 狭山 | 伊藤真理子 | 入間 | 塩澤 榮一 |
| 狭山 | 鈴木 浩明 | 入間 | 後藤 博 |
| 狭山 | 和田 雅士 | 入間東部 | 堀川 博基 |
| 狭山 | 鈴木 真澄 | 入間東部 | 齊藤 宏 |
| 所沢 | 猪口 茂 | 入間東部 | 斉木 正一 |
| 所沢 | 出居 正之 | 入間東部 | 北田 裕一 |
| 所沢 | 小太刀 周 | 入間東部 | 山崎 直樹 |
| 所沢 | 沼田 芳行 | 入間東部 | 今伊 大 |
| 飯能 | 馬場 治男 | 入間東部 | 菅野 誠一 |

比留間英雄会長からは、コロナ感染症拡大防止対策を講じて実施できた、令和四年度諸事業の成果と課題が述べられた。

毛呂山班が準備に奔走されて、ウエスト川越を会場に三年ぶりに「定期総会」が開催できた。秋の「彩の国教育の日協賛教育推進研究協議会」は飯能班が担当され、飯能市民会館で開催できた。協議会では、坂戸班の鹿ノ戸功紀氏が郷土の歴史を発表された。これらの成果は、会員の協力と担当地区の努力の賜物と称賛された。

次に、喜ばしいことの一つに、八十八歳以上の長寿会員が八十五名になった。

ウイズコロナの中、事業の充実、

入間地区退職校長会・各班のHPの開設が急務である。

また、定年の段階的引き上げにともなう、定年退職者への対応が課題である。

令和五年度 役員選考委員会の報告があり、役員案が提案された。

会長 比留間 英雄 氏
副会長 吉武 覚 氏

顧問 井上 清 氏

監事・理事・事務局・専門部役員が拍手多数で承認された。

新役員を代表し、比留間会長は、

本会の充実発展のために、会長の

重責を自覚し、リーダーシップを発揮する決意が述べられた。退任された役員の方々からは、人知れず悩み、苦勞された一端を披露しつつも、力を合わせて充実した活動ができた等の実感が語られた。会場全体から、退任された役員の皆様へ感謝の拍手が鳴り響いた。

令和五年度の事業計画案・予算案が、新役員から詳細に提案され、原案通りに承認された。

衛藤所長から、教育行政と学校の現状と方策を紹介いただいた。

コロナ感染症拡大防止対策例、「こども基本法」、子ども主体の学びを推進する学校現場、教員の働き方改革に伴う校務分掌の見直しや学校行事の精選や工夫改善、生徒指導の充実（いじめ等・重大事案の認知と対応）、教職員事故、定年の段階的延長と採用者数等を具体的に紹介いただいた。

石田会長からは、令和四年度は、川口市で六月三日、県退職校長会定期総会が、また深谷市で十月、退職校長会 関ブロ大会が実施でき、その成果が披露された。

令和五年度、一四三名の新会員を迎え、二七五二名の会員を抱え、全国有数の規模を誇っている。

県退職校長会の課題は、定年退職の段階的延長の対応とデジタル化に適した運営（ホームページの

開設やオンライン会議の導入等）である。各支部の実情を踏まえて取り組む意気込みが述べられた。年金支給額の微増や学習状況調査の成果・学校現場の働き方改革の進捗状況・教員の激務による退職者の一例を紹介いただいた。

意見発表では、全国退職校長会の事業の見直し（研究紀要の縮減）を要望することができないか。

ホームページ開設や充実に関わる研修会を開催して欲しい。と提案があった。比留間会長からは、前向きに検討する旨が述べられた。

コロナ禍を乗り越え総会が開催でき、会場内では談笑する会員の輪も見ることができた。来年度は新会員歓迎会・懇親会ができることを期待している。



笑顔で迎える受付係

事務局だより

ホームページ作成研修会

柳 榮治

五月二十二日（月）川越市東部地域ふれあいセンターで、HP担当者研修会が開催されました。

当研修会実施の経緯については、「いるま」第四十一号に掲載しています。入間支部や各班の活動内容がいつでも、会員の誰でも見ることが出来、ホームページを通して各班お互いの情報発信・交換をすることにより、会の充実発展につなげることが必要と考えました。

埼玉県退職校長会HP実務担当の羽島隆夫先生をお招きしご指導いただきました。

「HPを開設する」と言われると専門知識が必要で、費用も掛かるのではと思われませんが、ここでは、各班担当者が紙ベースで各項目に文章を記し、羽島先生に直接送付すれば、当日の内に即、県のHPに掲載されます。後は必要に応じてデータを更新するだけです。「まず、やってみてください」ときめ細かく丁寧に、そして、熱のこもったお話をされ、有意義な研修会となりました。羽島先生に心より感謝申し上げます。

七月末現在、毛呂山、坂戸、川



HP作成について話される羽島先生

越、日高、狭山のHPが開設されています。

◆「交流事業について」

五月に予定していた「新入会員交流のつどい」は、定年延長等の関係もあり中止となりました。

そこで、全会員を対象に「会員交流のつどい」を八月六日（日）に、川越市東部地域ふれあいセンターで実施しました。

ギターを本会員の高野明夫氏、フルートを東邦音大生の鈴木香名帆さんにより、美しい響きの二重奏を堪能しました。

また、「六十歳からの食生活と健康づくり」フレイルを予防する」と題し、女子栄養大学准教授府川則子先生にご講演をいただきました。盛夏の中、実りの多い研修・交流事業となりました。今後事業の見直しや工夫改善を図り会の運営に努めてまいります。



鉛釉藁白紋大鉢

趣味に生きる

川越 高橋 等

定年退職後、まだ社会のお役に立つならばと思ひ、教員を目指す大学生に、理科の指導法や採用試験対策としての面接・論文指導などを週三日程度行っている。規則正しく働くことで生活のペースが保てる長所がある。残りの日は、自遊人として、天気に応じて気の向くまま過ごすことに生きがいを見出している。

まず、仲間と楽しむゴルフがある。練習嫌いなので上達しないが、広大な自然の中、開放感に包まれた雰囲気で行うスポーツは適度な運動で心身のリフレッシュになる。

次に登山がある。若い頃はテント泊で日本アルプスを縦走した

が、今は体力不足のため、もっぱら日帰りである。残雪の谷川岳や上州武尊山、秩父や奥多摩の山が最近のお気に入りである。仲間とも行くがソロ登山もする。辛い登りを我慢し、山頂に立つ喜びを味わうために筋肉痛と戦う。登山は下山して帰宅するまでが登山である。

さらに焼き物づくりを趣味にしている。自宅の灯油窯で焼成し、二十年以上続けているので、家で使う食器は手作りのものが多い。美術展に出品することもある。しかし、ここでも勉強不足のため、特別な技法をマスターしていかないで、芸術的な作品は作れない。趣味の陶芸の世界を楽しんでいる。

その他、小さな畑で雑草と戦いながら無農薬野菜を育て、晩酌のつまみにしている。犬やメダカの世話も楽しく、癒しになっている。

登山家のメスナーが、「自分の人生は自分のために生きる。このエゴイズムは権利ではなく、人間の義務です。」と言っていた。「人生楽しく、より豊かに」過ごしたい。

生きがい

刀剣研磨に魅せられて

日高 結城昭司

二〇一一年東北大地震の翌日、群馬県桐生市の「刀剣研磨工房」にいました。刀剣研磨の各種道具や手順、刀剣の基礎知識等を学ぶためです。そこで刀剣博物館での研修会に参加し、研磨コンクールに出品することになりました。

修業時代

工房は遠いので近場の研師に懇願して二〇一三年に弟子入りを許され、十数年間の修業が始まりました。粗研ぎの大切さ、研ぎ目の見落とし、仕上げの作成や薄さ、手の平に目を付ける等々、研磨の基礎技術を叩き込まれました。

一人立ち

今年の春に師匠が八十歳を迎え、体力の衰えや弟子の人数を考慮してか、一人立ちするように言われました。今後は、今までに培った技術や刀の形状、研ぎの出来栄等々、工夫を重ねて自分と客が納得する刀剣研磨を目指します。

古物商になって

修業時代は、師匠が刀剣を都合しましたが、今は自分で行い、それらの売却先を見付ける必要があります。厳しい状況です。そこで、古物商の許可証を取り、先輩に付



刀剣の研磨

いて神川町や越生町、佐久市等の古物市場を巡り、ハタ師をしています。今後は露店にも出て刀剣販売をしていく予定です。

地域活動について

区長を四年、その後、民生児童委員を務めています。担当地区の安全安心を旨にアンケートを取り、通信発行や地区巡回等を行っています。今期は部会の長として多忙を極めていきます。また、自治会の朝市(月二回開催)で、包丁研ぎを無料で行い好評を得ています。

健康維持のために

毎日、五千〜七千歩を目標に歩き回り、朝夕には、ストレッチを四十分、週二回程度は、筋トレを一時間半位しています。また百坪の畑に作物を植え、草取りに精を出しています。

今の生活を後何年続けられるかわからないが、近い将来、取捨選択をする時期が来るだろうと暗澹たる気持ちにもなります。



雲洞庵赤門前

コロナ禍の回復により、入間地区退職校長会会員三十一名の参加者を得て、新潟県塩沢方面での研修親睦旅行が四年ぶりに実施された。

令和5年度 研修・親睦旅行 新潟・越後への旅

【旅程】 7月6日(木) 本川越・川越 → 「関越道」 → 塩沢石打IC → 雲洞庵(参拝) → 塩沢宿・鈴木牧之記念館(見学) 昼食(田畑屋) → 西福寺開山堂・毘沙門堂普光寺(参拝) → ゆのたに荘(泊)

7月7日(金) 越後ゆきくら館(見学) → 永林寺(参拝) → 堀之内IC「関越道」 → 昼食(魚野の里) 花の寺吉祥寺(参拝) → 「関越道」 → 川越IC → ウェスタ川越前 → 本川越

1日目 初夏の越後を旅して 入間東部 島崎利雄

最初の見学地は雲洞庵。本堂は上杉憲実公が曹洞宗雲洞庵を開創。赤門の参道には法華経が一字一石に埋められ、古来「雲洞庵の土踏んだか」と言われ、踏みしめて参ると、罪業消滅・万福多幸の御利益にあずかると信仰された。次に塩沢宿・鈴木牧之記念館。ここには牧之の遺墨や雪国に関係する資料が展示され、雪国に生きた人々の素朴でひたむきな暮らしぶりを伝えている。

昼食は田畑屋で名物のへぎそばを美味しくいただき、午後の見学地は西福寺開山堂である。開山堂には吊り天井に石川雲蝶の透かし彫りの大彫刻が素晴らしく、彫刻の他、絵画・漆喰細工が施されていた。最後の見学地、毘沙門堂普光寺は、日光東照宮の陽明門を型取り、信者の奉仕により建立された山門(仁王門)は壮大であった。

一日目の研修見学を終え、バスは宿泊地の折立温泉に向かった。夜の懇親会は昼間の疲れを忘れ盛り上がる事ができ、皆心地よい眠りについた。



毘沙門堂普光寺

2日目 『永林寺と石川雲蝶』 日高 山川治美

原稿執筆の依頼を受けた時、いたずら心がわきました。チャットGPTに書かせてみようかと・・・。「永林寺の訪問は、私にとって魂を揺さぶる感動の瞬間となりました。この寺院は、名匠石川雲蝶の彫刻で知られており、その芸術的な表現力と繊細さに圧倒されました。彫刻は、神々しさや力強さ、そして繊細さを表現しています。仏像や動物、自然の風景など、様々なモチーフが彫り込まれ、私たちを魅了しました。彫刻の技法や感情の表現は、まさに芸術の極致であり、私の心を深く揺さぶりました。彼の芸術は、歴史の一部として息づいており、私たちにその価値と美しさを伝えてくれています。」

永林寺での石川雲蝶の彫刻見学は、芸術と歴史の交差点でした。彼の才能と情熱は、私たちに何世紀もの間、感動を与え続けることでしょう。」



塩沢宿にて

会員の声

「健康寿命」を延ばす

所沢 塚田 幸久

退職後八年間、社会教育指導員として家庭教育学級に携わってきた。四月からは完全な自由人。そこで、「健康寿命」を意識して、ウォーキングを始めた。定時に公共交通等で通勤していた現役時代。

ウォーキングを始めて丘陵地でのアップダウンを感じた。鳥のさえずり、植物の香り、季節の変化を改めて肌で感じた。

ウォーキングは、動きやすい服装と靴さえあればよく、気軽に始めやすい運動。外出する時には一駅分歩いたり、時には、いつもより遠いスーパーまで歩いて買い物に行つて、家族にも喜ばれている。人生百年時代。この先さらに寿命が延びるのなら、健康寿命も延ばしたい。今は、歩くとポイントがたまるアプリをダウンロードして楽しみながら歩くなど、自分で目標も設定できる。

「無理なく」「無駄なく」「機嫌よく」をモットーに、そして、仲間をつくつて人とのつながりをもつ

ことも忘れずに、この先も過ごしていきたい。

退職してこれから

川越 駒井 忠幸

定年後五年間、拠点校指導教員として小学校二〜五年生の担任二十名と関わってきた。使命感と情熱あふれる初任者に刺激を受けながら、一人一人の個性に合わせてた助言を心がけた。コロナ禍での対応や生徒指導の難しさを感じた。同時に、埼玉大学非常勤講師として教職実践演習を一コマ担当することができたことは、学生目線で教職を考えるよい機会となった。

また、定年後、新たな日課となったのが、孫の保育園への迎えと夕食時の家事手伝いだ。孫も増え、これは今後しばらく続くが、妻も定年退職したので、一緒に孫育に関わっていくことになりそうだ。

改めて幼児教育や家庭教育の大切さを認識している。

今後は、人権擁護委員として、これまでの経験を活かしながら地域に貢献していきたい。



地元と共に

飯能 鈴木 良一

退職後五年を過ぎた頃からいよいよ地元の役職が回ってきた。自治会長を皮切りに健全育成会、社会福祉協議会。スポーツ協会やまちづくり推進委員会等々流れに任せて役を仰せつかり、地元の方々と顔を合わせる機会が多くなった。

地元で生まれ育つた私だが、在職中は地元の活動に携わることが殆どなかった。参加してみると、こんなにも沢山の方が様々な視点から地域や子供たちの事を一生懸命考え活動していることを改めて知ることができた。コロナ禍の影響もあり本格的な活動はこれからという時期ではある。

様々な活動や出会いに感謝しつつ、改めて地域の一員として、自分なりにやり甲斐を感じながら、まだまだ新参者ではあるが地元のために少しでもお役に立てればと思う。

人の温かさと繋がりに感謝

坂戸 田中 茂樹

居住年数が十年にも満たない私が、故あって地域の区長を務めることとなった。

曲がりなりにも区長としての仕

事をこなし三か月が過ぎようとした頃、集会所のエアコンの室外機が全て盗まれるという事件が起きた。警察に届けを出したものの戻ってくる可能性は極めて低い。季節がら早急な対応が求められることや、予算化されない金銭的なことへの対応など頭が痛い。そんなとき、地域の多くの方々力が貸してくれた。盗難に気づいていち早く連絡をくれたのも地域の方だったのは言うまでもない。助成金や今後の対応等についても様々なアドバイスをいただいた。事件は腹立たしいものだが、人の温かさと人の繋がりの大切さを教えてくれたのもこの事件だった。

みずたに幼稚園ロボットとミライ研究所

幼稚園でもSTEM教育

入間東部 北田 裕一

私の勤務する「みずたに幼稚園」は、埼玉大学STEM教育センターと連携し、富士見市の小学校で実践しているSTEM教育を幼稚園でも進めようと計画しています。

STEM教育とは、Sは科学、Tは技術、Eは工学、Mは数学の頭文字をとった言葉で、教科横断的・総合的な学習です。幼稚園では、ものづくりなどの様々な遊びを通してSTEM教育を進め、創造性や課題解決力などを身につけな

から園児の学ぶ喜びを育てていきます。

今年まずやってみたことは、①ねじを回して、シヨベルカーのおもちやを分解したり、組み立てたり、楽しく遊びました。②レゴデュプロで自分の考えた遊園地をつくり始めました。未来をつくる小さな博士を育てていきたいと思っています。

故郷は、心の中に生き続けて

人間東部 安藤 晋

昔あったてがなと言ひ昔話をしてくれた。私のおじさん。やせて歯が数本抜け、顔のシワも深かった。かまどの火に薪をくべ、ボソボソと意味深げに話す。私の幼い心を揺さぶった。「ネ！おじさんその続きは」とせがんだものだった。もう一つ。同じ家に、若い娘さん数名に洋裁を教える人もいた。ある時、私は兄と大ゲンカをし大泣き。手足をジタバタして悔しがつた。見かねて、習いに来ていたお姉さんが、小さい私をグーツと抱きしめ、宥めてくれた。いつまでも暖かい心に浸っていたいと、さらに泣き続けたことを思い出す。故郷は雪深い地。大雪で、馬ソリで荷を運搬。ホテルが乱舞する越後平野。フンドシ姿で泳ぐプールなど八十才になり、一層なつかしく思う昭和二十五年頃の話。

学校教育から社会教育へ

人間 浅見信治

この三月に定年退職をし、三十八年間の教職生活を無事終えることができました。多くの教え子や同僚、先輩の先生方に恵まれ、やりがいを持って勤められたことに感謝の気持ちでいっぱいです。四月からは、人間市教育委員会社会教育課で社会教育指導員としてお世話になっています。

公民館活動やPTAの家庭教育学級、さらに市民の方への人権教育などを担当しています。学校現場しか知らない私にとっては、すべてが初めての経験です。改めて、勉強しなくてはと感じています。

また、社会教育課の仕事から多くの人が様々な学びをしていることが分かりました。生涯にわたる学びに少しでも役立てるよう力を尽くすとともに、自分もさらに学び続けていきたいと思っています。

茗荷

人間 正高喜吉

三年前、当時勤務していた職場の職員が、茗荷の苗を持ってきた。数週間後、事務室の片隅に枯れかかった苗が、一本だけ残っていた。家で植えてみようかと思い、車に積んで数日、さらに玄関先で一週

間を過ごし、すっかり枯れた状態となった。捨てるのも忍びないの

で、一応、庭の隅に植えてみた。翌年の春、見慣れぬ植物の芽に気づいた。まさかあの茗荷が……。そのまさかだった。収穫も三つあり、思いがけないご褒美となった。その後、スマホで茗荷の栽培について検索してみた。簡単に言うと、日当たりの悪いところに、ほつたらかしておくのが良いので、初心者向きとのこと。

ずぼらな私と運命的な出会いを果たした茗荷は、今年は十本以上になり、元気に成長を続けている。

顔と顔

狭山 坂本 一男

先日の旅先では、名所やロープウェイ、宿でもマスクを着けている人はほとんどなく、自分たちも自然とマスクを外していた。外国の方々が多かったというところもあるが、随分と開放感が増したと感じた。

マスクをしていると相手の目からの情報しか入ってこない。マスクのない顔は目と口、鼻や頬、肌の色艶まで顔のすべてを駆使して、その人全体の表情を豊かにしてくれていると改めて気付かされた。最近は行き交うマスクなしの顔が新鮮に映る。日常が戻りつつあ

る安堵の顔、マスクを外した不安そうな顔、新しいことに向かう決意の顔、様々な顔が戻ってきた。

学校でもマスク生活が減り、子供たちには顔と顔を突き合わせ、色々な表情を見て取りながら学んでいってほしいと願っている。

野菜づくりと教育

日高 駒井 勇

定年から六年が経ち、野菜づくりに挑戦しています。誰がやってもできると思ってた始めましたが、今難しさを実感しています。満足できる大玉トマトを採るために、五年かかりました。

そのために、①前年迄の栽培記録を見直すこと、②生育環境が違うので解説書以上に地域の方の話を聞き活かすこと、③同じ野菜でも一株一株の生長をよく見て、きめ細かな手入れに努めること、を大事にしています。これらは子供の教育と同じであり、野菜づくりも期間が長く試行錯誤の連続です。

しかし、採れたての完熟トマトの瑞々しさは格別です。今日も無農薬のキャベツとブロッコリーを味わっています。作物がすくすくと育つ様子を見守り、野菜づくりを楽しんでいます。

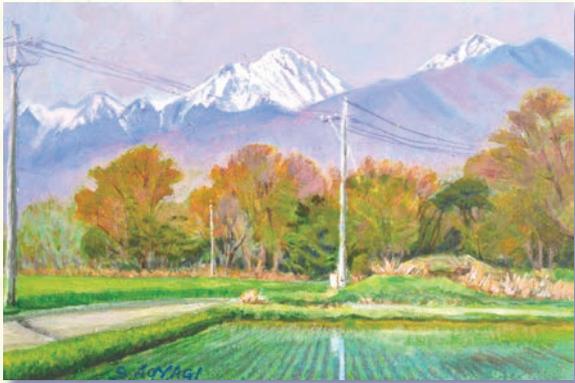




「毘沙門天」(木彫)
川越 谷川輝之



写仏「観世音菩薩」(顔彩)
川越 秋山武敏



「早春の安曇野」(水彩画)
狭山 青柳進



「盛夏に集う野鳥たち」(バードカービング)
入間 清水新吉



「紫陽花」(折紙)
坂戸 阿内久子



「ブティへの第一歩」(詰め糸手芸)
入間 塩野育子

編集後記

四年ぶりの研修旅行も実施され、ようやく本会の活動も平常に戻りつつあります。

学校もこの期にGIGAスクール構想が一気に進展し、一人一台のタブレットで、デジタル教育の推進が図られているようです。

先日、来年度使用される小学校用の教科書を閲覧してきましたが、どの教科書もQRが各所に添付され、幅広い学習ができるよう配慮されています。紙ベースの資料と合わせて探求型学習が進められるものと期待しています。

紙面にて情報提供しております会報「いるま」の編集委員が役員改選により代わりました。

埼玉県退職校長会・入間のホームページとリンクし、よりよい紙面作りを図っていきます。ご協力よろしくお願いたします。(熊本)



野口 委員 熊本 委員長
久田 委員 比留間 会長
田島 委員 西澤 副会長

入間地区退職校長会会報 第四十二号

発行 令和五年九月一日

発行者 会長 比留間英雄

越生町成瀬一四一一

印刷所 六三四堂印刷株式会社